

# ブラジル国サンパウロ市都市交通整備事業 スコーピング案 助言

2009. 8. 7  
環境社会配慮審査会

## 事業選択の妥当性

1. 本案件で選択したモノレールの敷設が交通緩和に与える効果を、他の公共交通の整備計画との関係を含めたうえで、より明確に示しておく必要がある。
2. 中規模輸送システムを比較検討し、本件調査が対象とするプロジェクトに至った経緯を明確にすべきである。

## 代替案の検討

3. 本調査で設定されるオリジナル案は既往の各種調査で決定されたと理解するが、EIA報告書では、オリジナル案決定の経緯を概記する必要がある。
4. 住民移転等の問題が予想されながら有効な代替案の設定ができない路線があることを踏まえ、路線毎に必要な性と代替案の設定が困難な理由についてより一層の丁寧な説明に務めることが望ましい。

## スコーピングマトリックスにおける項目・評価

5. スコーピングマトリックスにおける以下の項目につき、再検討・評価の必要がある。
  - ①工事中の車両運行  
道路上に敷設する場合、通行車両に与える影響が大きく、一時的ではあるもののこれまで以上に混雑を発生させる可能性が高いため、十分な対応策を検討していただきたい。
  - ②「主要な行為」として「居住者や就業者の増加」を挙げることの妥当性  
既に混雑している地域で、さらに増加することを挙げることに疑問を感じる。むしろ、下記③に関連して交通流の改善や移動の容易性を挙げるべきである。
  - ③主要行為  
供用後に、自動車交通から鉄道へのモーダルシフトが期待される。このことを明確にするためには、主要行為のうち「供用後」の部分に、「自動車交通の削減」を加えるのも一案である。それによって、自動車から排出されるCO<sub>2</sub>や有害汚染物質の削減を明示することができるように思われる。よって、全体の構成を考慮した上で、本件にかかる検討をお願いしたい。
6. 交通計画に伴い沿線に新駅の設置が見込まれているが、これらの新駅及び路線新設は立地点周辺の土地利用計画において、都市開発を促進する契機になると予測される。したがって、スコーピングマトリックスにおいて、これらの項目（(周辺)土地利用の項）を新設すること、また路線及び新駅周辺の計画的な開発プログラムの必要性を言及する必要がある。

7. 本計画に伴う削減自動車交通量に関連して、本計画による温室効果ガス削減効果を定量的に把握すべきである。

また、現在及び将来（計画なしの場合）の予測される交通渋滞に対して、本計画による緩和効果を言及することが必要である。

### **社会的影響への配慮**

8. 本案件が環境に配慮した事業の例として考えられていることから、社会的な影響についても環境面と同等以上に配慮することが望ましい。なかでも、不法占拠者を含めた住民移転については、特段の配慮が必要である。特に、3A のルートは交通需要の規模に比較して移転数が大きいことから、オリジナル案ではなく、他の代替案を検討する方向を進めることが望ましい。

### **ステークホルダー協議**

9. 住民協議については関係者が多数にのぼることが予想されるため、開催場所や頻度等の実施方法については工夫が必要であり、柔軟性を持たせておくとともに、移転が予想される不法占拠者については、丁寧な説明など十分に配慮することが望ましい。

また、住民との協議については、地区ごとに開くことを検討する必要がある。

### **現地調査スケジュール**

10. EIA 調査のうち、大気、騒音・振動、水質、土壌等の現地調査は2010年1月～4月に行われると理解するが、既存の観測データを利用し、同期間に行われる現地調査の結果が対象地区の年間を通しての環境の質を判断することを確認すべきである。

以上